

センター通信

平成 24 年 2 月 1 日

2011 年 12 月某日、白川の「こひつじ保育園」の可愛い園児さん 12 名を当サービスに招き、歌とハンドベルのクリスマス発表会をして頂きました。

太宰府市 NPO・ボランティア支援センターから紹介していただいたの催しでしたが、大勢の利用者様と子どもたちとのふれあいができて、つなげていただいた御縁に、一同心から感謝しております。



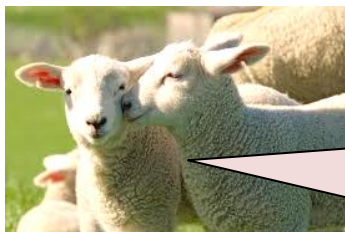
クリスマス会の最後、利用者様から子どもたちへプレゼントを渡す時間には、ひ孫を見るような優しい目を向け、皆様柔らかな笑顔が溢れ、とても温かい雰囲気になりました。



多くの方々が私共のような福祉施設へ気軽に訪問できる環境を整えることで、世代を越え、同じ地域に住む人が互いに見守っていただけるような温かい街に、今後益々なってほしいと願っています。



有限会社 眞心 デイサービス観世 職員 高橋



この他にも、腹話術ができる方を保育園のイベントにご紹介するなど、求める人と求められる人の橋渡しができて、私ども、太宰府市 NPO・ボランティア支援センターのスタッフも、嬉しかったです。

ボランティア元年と未来へのバトン



阪神大震災が発生した1995年は「ボランティア元年」と呼ばれています。

12月に太宰府市NPO・ボランティア支援センターに実習に来た京都のNPOの代表の方はちょうどこの時、福祉系の大学生で、毎週末にサークルの仲間と神戸に通ったそうです。1995年、一年間で被災地に足を運んだ市民は137万人。直接現地に向かえなくても「自分に何かできないか」と感じた人は多かったと思います。京都で地域作りの活動をしている人で、この時に現地に駆け付けた経験を持っている人は多いそうです。

昨年の3月、震災の再来でまた^{かっかそうよう}隔靴搔痒、もどかしい気持ちを感じながらの新年となりました。支援センターでは東北にボランティアとして向かうグループの後方支援、災害ボランティアに関する連続研修（全6回）を行いました。この経験の中で支援センターの地域での役割や、中間支援団体としての存在意義を考えるきっかけとなったように思います。

東北で震災のボランティア活動をした大学生の95%が「再び行きたいと思う」87%が「満足を得られた」（1月17日朝日新聞・天声人語より）との回答。ボランティアの活動がなによりボランティアをする人の為にこそあることを表しているとともに、健全な若者の意識もうかがえます。支援センターも応援をして東北に送り出した太宰府の高校生グループも、少したくましくなった顔で自分たちの実践報告をしてくれました。

NPOやボランティアの活動は「あの人のため、私自身のため、そして来るべき未来のため」にあるのではないかと、未来に生きる若者へバトンを渡すためのミッションではないかと昨年の体験を通じて思います。今年も多くの市民の方々と共に、安心して暮らせるまちづくりを広げていきたいと考えていますので、ご協力をお願い致します。

太宰府市NPO・ボランティア支援センター 松澤 秀樹

- 隔靴搔痒：痒かゆいところに手が届かないように、はがゆくもどかしいこと。





～みんなの広場～



当センターが開催している、地域支援コーディネーター育成講座・初級に参加しました、Mさまの感想です。

はじめての講座受講でした。和気あいあいとした雰囲気の中で、ロールプレイでは幸いにも、私の「困った問題」を取り上げていただきました。

まず、ロールプレイを繰り返し行うことで、私は自分自身を側面から伺い見ることができたような気がしました。そして講師の先生の助言で、身近な人からの気遣いと共感の言葉を受け、私の感情が和らいでいく体験をしました。すると自分では気がつかなかったのですが、私の声のトーン、表情が明らかに違っていると、他参加者の皆さんから教えていただき、これまでつらい感情を持ち続けてきた「困った問題」にも解決できる糸口が見つかるかもしれないという思いになりました。

この講座で経験したことから、周囲の人への支援の一つの方法を学べた気がします。

福岡市在住ですが、また機会があればぜひ参加させていただきたいと思っています。ありがとうございました。

コーディネーター育成講座は、地域への福祉力活性への意欲を持った方々が、「地域の盛り立て役」として活動するための能力向上と、地域の中で自信を持って活動するきっかけになることを目指した講座です。



講座案内

日時	講座名	講師等	参加・資料代
2/4(土) 14:00～16:00 206・207号室	カウンセリング基礎講座第6回 「まとめ(フィードバック)」	吉田 久美子さん	100円
12:20～13:20	天神の杜(福祉サロン)		
3/11(日) 13:00～16:00 208号室	実践講座 契約について 「契約書の作り方(不動産の契約など)」	藤林 陸紀さん 中村 哲示さん	無料

団体紹介

だざいふソーシャルクリエイション

はじめまして、NPO法人・だざいふソーシャルクリエイションです。

当法人は平成23年の11月に設立いたしました。私たちの地元である太宰府市の発展のため、また、私たちの将来を見据え、これからも太宰府市で生活をしていく上での環境づくりを目的に設立しました。

数十年前と今の日本社会のでは、「コミュニティ」に違いがあると思います。

昔は回覧板を近所に持っていき、近所の人の顔を覚え、お菓子をもらい、今度はお菓子と回覧板を持っていく…といった地域でのかわりが多かったように感じます。しかし、現代ではアパートやマンションが増え、回覧板を回す習慣さえ減ってきたのではないのでしょうか。このような現状を踏まえ、私たちは老年・壮年・青年の繋がりのあるコミュニティを再度取り戻すべく、活動していきたいと考えました。

私たちは、①高齢者などの生活支援 ②若者向けのキャリアアップ講座 ③生ゴミ処理支援 ④太宰府市民でつくるウェブサイト運営 を主な活動としていきます。その中で、行政や太宰府市在住の企業OB、NPOボランティア支援センターの応援もいただき、今年4月より高齢者などの生活支援として「買い物代行」、「便利屋」事業を行います。この事業を通して、私たち若者と高齢者の方の繋がりをもう一度築く第一歩にしていきたいと考えています。

市民、行政、商工会、NPO（ボランティア団体）がそれぞれを助け合いながら生活できる町を作ることが私たちの目指す「太宰府市の未来像」です。そのために、私たちは太宰府市民、行政、自治会、企業、各種団体に働き掛けていくことはもちろんですが、このセンター通信をご覧いただいている皆様にも少しのご協力を頂けるとさらなる発展が望めます。

私たち若者は「行動力」、「提案力」、「突っ走り」が良いところでもあり、悪いところでもあります。その長所を最大限に活かし、短所を皆様に補っていただき、何度も申し上げますが私たちの育ってきた「太宰府」をより一層いい町にしていくことをお約束します！！

私たちの活動が老年・壮年・青年の繋がりから地域社会を再度作り上げていき、太宰府が一つのモデル地域になるように今後の活動も試行錯誤しながら精進してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

事務局長
古瀬悦登



理事長
前田和範

申し込み・問い合わせは「太宰府市NPO・ボランティア支援センター」をお願いします。

太宰府市五条三丁目1番1号 いきいき情報センター 1階

平日 10:00~18:00 土・日曜日 12:00~18:00

(休業日 毎週水曜日、祝日、8月13日~15日、12月28日~1月4日)

電話 092-918-3633 ファックス 092-918-3644

E-mail dazaifu-volusen@wish.ocn.ne.jp

HP <http://dazaifu-volusen.sakura.ne.jp/>

